

ます。

人っ子の我が子により

11

教育を受けさせたい

と考

投票

查看结果

看所有调查

相关网站

国家心意學会

可指到金

及學數質科學研究会

Dr Elschool

北京 学前教育阿

12

5 え、

0

原稿も多く掲載されて

中国

0

幼児教育の

専門家

え、 ょ

子育てに悩む親たちにと

ぐる研究を知る窓口としても とともに、日中の子どもをめ たくさんあります。 をさらに充実させ、 関 国 H 教育現場を結ぶ役割を果た 事情 する問題も共通 中 がありながら、 衣帯水」、 そ 専門家 する部 コンテン れぞ 子ども 分 れ

が ツ

に

す 親

母子间的相互作用

· 亲子行动的意义 · 母子间的相互作用 · 导乐制度 · 數據大脑的温情

· 让我们来关注"儿童科

· 融級大廠的温情 · 温情的力量 · 感性信息的作用 · 孩子们的生活节奏与行... · 母子间的亲子交流 · 从生活环境中汲取信息

·精神世界亦受程序控制 ·生命力,一种自然程序 ·信息探索者

人类进化的过程与孩子 多样性的生物学基础 关注孩子 · 为何提倡"儿童科学"

大家谈"儿童科学"

·什么是"儿童科学"?

·参加"日本儿童 ·为什么全世界的

·文理学科融合的 ·以进化理论为桥梁 ウェブサイト 情報の窓口としての

を紹介する日 R (中国語名は「児童科学 N 中 国語版に 本発の情報に は、

を発展させていきます。 機能するよう、 C R N 中 玉 語

ともに、中国の子ども研究者との交流も進んでいます。 二〇〇五年二月に開設したCRN中国語版。ウェブサイトの成長と 語版開

ESEARCH ET 日本語 English 阿祜导航 意见反馈 MENU 🕨 🧐 儿童科学 🍪 資料博览 (\* 研究课题 \*\* 中心信息 ル亜研究例(CRN)整研究 利取はル第向時的別上研究 所・「ル亜科学) Chila Science」 是一項多学科交 文。 配自然科学和社会科学 カー体の新型研究。 我们为 大変接供の原理研究。 我们为 → 中国女留学生的母子保健医疗调查报告 → 所长新年書语"°× → PLAYFUL?權助的感觉。新願的创意 → 专家答疑:小孩认生怎么办?"°× → "Cohort Study (定群追踪研究)" → 日本幼教最前沿"" 2005.12.22 2005.12.9 学前儿童识字教育谈 → 连载-皮皮在日本:保育園的营养餐 儿童科学 (jine 國上调查 mil) MENU 每天允许孩子看多长 时间的电视? "儿童科学"是文理融合 的新型的人类科学,综合 地研究和探讨当今孩子们 所面临的各种问题。 100 资料博览 ○完全禁止 幼儿生活调查数据以及有关育儿、保育和教育的论 ○ 半小时 ○ 一个小时 ○ 一个半小时 ○ 二至四小时 文

▼ 日本幼儿教育的现状和课题

▼ 幼儿识字教育 小林登博士论著 母子间相互作用.. 母子对视的作用 ○想着多久看多久 ▶ 调查资料数据

▶ 给幼儿园教师"松绑"

中国发展心理学概况

当代中日学前教育面临的主要问题比较

有关保育、育儿、教育、健康等各类儿童问题,组

织专家组进行调查和研究,并定期发表研究报告。 ▶ 非正规学前教育研究……连载

➤ 专家答疑 - 0~1岁儿童的健康呵护 ➤ 专家答疑 - 2~3岁的儿童发育

专家答疑 - 认生 \* 不安定的样子 (2005/12/22)@30

征求友情链接,有意者请与我们联系。

所长寄语(2005/12/22)@ ► 儿童研究网(CRN)简介 ► 活动简历 ▶ 事务局

"尽情游戏" (playful) 研究(2005/12/22)

▶ 布朗大学通讯

研究课题

聊天室

**夢** 友情链接

▶ 申请友情链接

● 关于我们 网上研究所CRN的介绍。

クセス数を伸ばしています。 育関係者からも支持を受け、 御

さん

のみならず研

究者

8

教 親 育児は魅力的。

そのニ

1 Nは、

ズに応

科学的

な根拠に基づ

7

0 つ

えうる存在であるCR

## http://www.crn.net.cn/

## ◆人気コンテンツ◆

「非正規学前教育研究」(研究課題/Laboratory)

北京師範大学の張研究室が取り組む、幼稚園に通えない子 どもたちへの教育実践を紹介。

「中国発展心理学概況」(資料博覧/Library)

中国における発達心理学の歴史、課題と今後について、専 門家が分析するレポート。

「日中学前教育比較」(資料博覧/Library)

両国に存在する主な課題を分析し、お互いの共通点と相違 点を比較しています。

加者が中国の幼児教育につい て知ることができました ケアと教育の発展と現状」につ 来日されたのは、朱家雄教授 で「子ども学」に関心を持つ研 には、「中国における就学前の 究者との交流を企画しました。 より二名の学者を招聘し、日本 (中央教育科学研究所)。会議中 (華東師範大学) と田輝研究員 てご講演いただき、多くの参

第二回子ども学会議」 18・19) にあわせ、

を実感しました。 子ども学」と「児童科学」 ブを介した交流だけでな 理的な近さを活かし、日 かの地で共に集い、子

ど、活発なディスカッ なされました。 と子どもへの関心事を語るな な分野の専門家が、 認知科学など様々 自身の研究 ションが

ども問題を語ることの大切さ

China-Japan Exchange in Child Science Research Two researchers from China were invited to make presentations at the

Child Science Research

also expanding.

Website as a Forum

educators is increasing steadily.

research on children in China and Japan.

second annual conference of the Japanese Society of Child Science. Professor Jiaxiong Zhu of East China Normal University and Ms. Tian Hui, research fellow at China National Institute for Educational Research, spoke on early childhood education and care in China, providing participants with a valuable opportunity to learn about this field in China.

CRN launched its Chinese-language website in February 2005. As our site

grows in content, exchanges with Chinese child experts and researchers are

Besides the latest information on Child Science from Japan, CRN's Chineselanguage website posts a vast range of articles from experts on early childhood education in China. Backed by scientific data, this information on child-rearing meets the needs of parents who are concerned about how to better bring up and educate their only child. Access by parents as well as

China and Japan are, as they say, separated only by a narrow strip of water,

and despite different circumstances, we have much in common when it

together parents, educators, and researchers and serve as a forum for

comes to children's issues. CRN plans to expand website content to bring

Expanding Child Science with Chinese-language Website

Following the conference, the participants, made up of specialists in developmental psychology, brain science, robotics, the cognitive sciences, and many other fields, attended a reception and enjoyed discussing their own research and child-related interests. The proximity of China and Japan allows us to easily meet for face-to-face exchanges that go beyond the usual website communication, and this has underscored the importance of talking about children's issues.

## China Visit and Lecture

In October 2005, Dr. Kobayashi was invited by the Shanghai Soong Ching Ling Foundation of the China Welfare Institute to give the keynote speech at an international symposium on "Early Childhood Education in a Multicultural Society." The title of his address was "Joie de Vivre is Essential for Children, Anywhere and Anytime, Child Science of Emotion." Combining biological perspectives on children with education in a holistic manner, Child Science is generating interest in China where considerable national resources and much energy are now being devoted to education.



を受けたようです。

RN所長訪中講演

C

ンでは、発達心理、脳科学、ロ

会議終了後の歓迎レセプショ

る「子ども学」に大変な刺激 え、教育と有機的に結びつけ 子どもを生物的な視点から捉 動の子ども学」。子どもの教育 もどこでも必須のもの~ に国家を挙げて力を注ぐ中国 Vivre ~子ども達にとって 小林登CRN所長は基調講演をしました。テーマは「Joie de われた国際フォーラム「多文化共生を背景とした幼児教育」にて 生きる喜び一杯」はいつで 中国福利会宋慶齢基金会の招聘で、二〇〇五年十月に上海で行